



## 2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月9日

上場会社名 ノイルイミュン・バイオテック株式会社 上場取引所 東  
コード番号 4893 URL <https://www.noile-immune.com/>  
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）玉田 耕治  
問合せ先責任者 （役職名）取締役管理部長 （氏名）永井 寛子 TEL 03 (5843) 7819  
半期報告書提出予定日 2024年8月13日 配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

#### （1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	事業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	2	△77.2	△681	—	△682	—	△683	—
2023年12月期中間期	11	—	△481	—	△832	—	△833	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	△15.79	—
2023年12月期中間期	△21.03	—

（注）1. 2022年12月期中間期については、中間財務諸表を作成していないため、2023年12月期中間期の対前年中間期増減率については記載していません。

2. 2023年12月期中間期潜在株式調整後1株当たり中間純利益および2024年12月期中間期潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載していません。

#### （2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	5,087	5,006	98.3
2023年12月期	5,778	5,687	98.3

（参考）自己資本 2024年12月期中間期 4,999百万円 2023年12月期 5,680百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年12月期の業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

当社の事業上の特性として現時点では業績に与える未確定な要素が多く、今後の見通しについては、適正かつ合理的な数値の算出が困難な状況と考えており、2024年12月期の業績予想は記載していません。なお、今後の事業進捗を踏まえて、合理的な開示が可能となった場合には速やかに開示いたします。また、当該理由、2024年12月期の事業方針などは添付資料P2「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2024年12月期中間期	43,301,765株	2023年12月期	43,276,765株
2024年12月期中間期	－株	2023年12月期	－株
2024年12月期中間期	43,292,248株	2023年12月期中間期	39,639,914株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
中間会計期間	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(中間損益計算書に関する注記)	8
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社は、「がんを克服できる未来の創生に貢献する」という経営理念の下、当社の独自技術であるPRIME (proliferation inducing and migration enhancing) 技術を用いた固形がんに対するCAR-TやTCR-Tなどの遺伝子改変免疫細胞療法の研究開発に取り組んでおります。

当中間会計期間における当社事業の概況としまして、PRIME技術を基盤とした自社創薬事業及び共同パイプラインを引き続き推進いたしました。自社創薬事業におきましては、当社パイプラインNIB102およびNIB103の武田薬品からの返還が完了し、武田薬品から移管されたデータの評価結果を基に、当社が保有する臨床ステージのパイプラインNIB101、NIB102及びNIB103、また、非臨床ステージのパイプラインNIB104及びNIB105の各開発進捗状況を踏まえ、今後当社が主体となって進める開発品目として、NIB103の新たな第I相臨床試験の開始を最優先事項として取り進む方針を決定いたしました。今後当社は、2025年の早い時期の治験届提出を目指しNIB103の開発に取り組んでまいります。なお、NIB103以外の自社創薬パイプラインについては、共同開発を含めたあらゆるアプローチを介して開発を推進するとともに、NIB104 や NIB105 の早期の臨床ステージへの移行に取り組んでまいります。また、当社はこれらに続く新たなパイプラインや次世代技術に関する研究について引き続き実施しております。2017年より継続している国立大学法人山口大学との共同研究においては、引き続きCAR-TやTCR-Tを中心とした次世代型遺伝子改変細胞療法、他家細胞を利用したがん免疫細胞療法、次世代型PRIME技術に関する研究を実施しております。

共同パイプラインにおきまして、従前よりPRIME技術をライセンスしているAdaptimmune therapeutics plc, Autolus therapeutics plc及び中外製薬株式会社による研究開発が引き続き進行しております。また、技術評価に関する契約を締結している第一三共株式会社において評価研究を実施中です。

以上の結果、当中間会計期間における事業収益は2,587千円（前年同期比77.2%減少）を計上したものの、継続的な研究開発活動を実施する一方で新規のライセンスに関する契約の締結が行われなかったことから、営業損失は681,816千円（前年同期は481,500千円の営業損失）、経常損失は682,206千円（前年同期は832,341千円の経常損失）、中間純損失は683,420千円（前年同期は833,554千円の中間純損失）となりました。

なお、当社は、がん免疫療法創薬事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

### (2) 当中間期の財政状態の概況

#### (資産)

当中間会計期間末の総資産は5,087,823千円となり、前事業年度末に比べ691,123千円減少しました。これは主に、現金及び預金が608,422千円、長期預け金が35,034千円、未収消費税等が25,625千円減少したこと等によるものであります。

#### (負債)

当中間会計期間末の負債は81,292千円となり、前事業年度末に比べ10,202千円減少しました。これは主に、未払法人税等が7,810千円減少したこと等によるものであります。

#### (純資産)

当中間会計期間末の純資産は5,006,531千円となり、前事業年度末に比べ680,920千円減少しました。これは主に、中間純損失の計上により利益剰余金が683,420千円減少したこと等によるものであります。

### (3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、4,947,268千円となり、前事業年度末に比べ608,422千円減少しました。当中間会計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主要要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は、611,479千円（前年同期は509,179千円の使用）となりました。これは主に、税引前中間純損失682,206千円の計上があった一方、長期預け金の減少35,034千円、未収消費税等の減少25,625千円等による増加があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で得た資金は、557千円（前年同期は5,316千円の使用）となりました。これは主に、研究施設減床のための差入保証金の回収による収入567千円によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で得た資金は、2,500千円（前年同期は1,947,090千円の収入）となりました。これは、新株予約権の行使に伴う株式の発行による収入2,500千円によるものであります。

## (4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、今後NIB103の新たな第I相臨床試験の開始を最優先事項として取り組む方針を決定いたしました。2025年の早い時期の治験届提出を目指しNIB103の開発に取り組んでまいります。なお、NIB103以外の自社創薬パイプラインについては、共同開発を含めたあらゆるアプローチを介して開発を推進するとともに、NIB104やNIB105の早期の臨床ステージへの移行に取り組んでまいります。共同パイプラインについては、既存のパートナーとのプロジェクトを推進するとともに、新たなパートナーとの提携によるアップフロント収入等の獲得を目指しております。しかしながら、当社の事業はパートナーによる事業の進展状況や新たなライセンス契約による事業収益等によって業績が大きく変動する可能性があります。また、上記のように武田薬品工業株式会社より返還されたNIB102及びNIB103の開発と商業化に関する権利を含め前年度以前の開発計画の見直しを進めている段階であるため、本日以降の開発計画に変更が生じる可能性もあります。当社の事業上の特性として現時点では業績に与える未確定な要素が多く、今後の見通しについては、適正かつ合理的な数値の算出が困難な状況と考えており、通期の業績予想は開示しない方針です。なお、今後の事業進捗を踏まえて、合理的な開示が可能となりましたら速やかに開示いたします。

## 2. 中間財務諸表及び主な注記

## (1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当中間会計期間 (2024年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,555,691	4,947,268
貯蔵品	20,901	11,580
前渡金	29,317	36,418
前払費用	38,622	23,753
未収消費税等	66,994	41,369
その他	5,561	1,395
流動資産合計	5,717,089	5,061,786
固定資産		
投資その他の資産		
長期前払費用	2,699	2,471
長期預け金	35,034	—
差入保証金	24,123	23,565
投資その他の資産合計	61,857	26,037
固定資産合計	61,857	26,037
資産合計	5,778,946	5,087,823
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	18,715	17,284
未払費用	29,613	30,335
未払法人税等	30,210	22,399
契約負債	2,845	—
預り金	4,875	6,038
流動負債合計	86,260	76,058
固定負債		
資産除去債務	5,233	5,233
固定負債合計	5,233	5,233
負債合計	91,494	81,292
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,045,977	4,047,254
資本剰余金	4,023,821	4,025,098
利益剰余金	△2,389,247	△3,072,668
株主資本合計	5,680,550	4,999,683
新株予約権	6,901	6,847
純資産合計	5,687,452	5,006,531
負債純資産合計	5,778,946	5,087,823

(2) 中間損益計算書  
(中間会計期間)

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
事業収益	11,344	2,587
事業費用		
事業原価	1,835	195
研究開発費	286,799	423,163
その他の販売費及び一般管理費	204,209	261,045
事業費用合計	492,844	684,403
営業損失(△)	△481,500	△681,816
営業外収益		
受取利息	22	28
還付加算金	—	49
その他	0	2
営業外収益合計	22	80
営業外費用		
為替差損	628	470
上場関連費用	341,602	—
株式交付費	8,632	—
営業外費用合計	350,863	470
経常損失(△)	△832,341	△682,206
税引前中間純損失(△)	△832,341	△682,206
法人税、住民税及び事業税	1,213	1,214
法人税等合計	1,213	1,214
中間純損失(△)	△833,554	△683,420

## (3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△832,341	△682,206
受取利息	△22	△28
上場関連費用	341,602	—
株式交付費	8,632	—
為替差損益(△は益)	382	—
棚卸資産の増減額(△は増加)	△4,243	9,321
前渡金の増減額(△は増加)	△133	△7,100
未収消費税等の増減額(△は増加)	△59,227	25,625
長期預け金の増減額(△は増加)	—	35,034
未払金の増減額(△は減少)	24,605	△1,430
未払費用の増減額(△は減少)	△519	721
契約負債の増減額(△は減少)	4,020	△2,845
その他	10,460	13,768
小計	△506,784	△609,140
利息及び配当金の受取額	18	23
法人税等の支払額	△2,420	△2,420
法人税等の還付額	6	56
営業活動によるキャッシュ・フロー	△509,179	△611,479
投資活動によるキャッシュ・フロー		
差入保証金の回収による収入	—	567
差入保証金の差入による支出	△5,316	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,316	557
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	2,457,905	2,500
上場関連費用の支出	△510,815	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,947,090	2,500
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,432,595	△608,422
現金及び現金同等物の期首残高	4,520,997	5,555,691
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,953,593	4,947,268

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間（自2023年1月1日 至2023年6月30日）

当社は、がん免疫療法創薬事業の単一セグメントであり、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当中間会計期間（自2024年1月1日 至2024年6月30日）

当社は、がん免疫療法創薬事業の単一セグメントであり、セグメント情報の記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(中間損益計算書に関する注記)

※1 研究開発費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
委託研究費	142,566千円	288,725千円
給料手当	42,097	48,581
研究開発器材費	35,613	—
研究材料費	10,314	31,117

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
役員報酬	35,072千円	40,159千円
特許関連費	18,346	39,139
給料手当	45,665	62,051
支払報酬	19,660	27,354

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
現金及び預金勘定	5,953,593千円	4,947,268千円
現金及び現金同等物	5,953,593	4,947,268